

独立行政法人放射線医学総合研究所の中期目標について

基本理念

- 我が国は唯一の被爆国
 - 原子力は我が国にとって必要不可欠なエネルギー源
 - 国民生活に密着した放射線利用技術
- } 原子力の平和利用

状況の変化

- ・ 原子力関連施設における事故
- ・ 医療技術の高度化による被ばく機会の増加

→ 放射線被ばくの人体への影響に対する
大きな不安と関心

放医研

- 放射線の人体影響
 - 放射線障害の予防・診断・治療
 - 放射線の医学利用
- } に関する研究開発を総合的に行う
国内唯一の中核的研究機関

原子力長計

科学技術基本計画
安全研究年次計画

10年程度を見据えた基本目標

- 患者の負担の少ない放射線診療の実現
- 放射線に対する国民の正確な理解の促進
- 研究成果の世界への発信を通じた被ばく医療体制及び防護基準策定への貢献

重点研究開発 領域の設定

基本目標達成に向け、独創的、先端かつ総合的な研究開発を進めるため、研究資源の重点配分を行う。

長期目標（10年程度）	5年間の中期目標
放射線先進医療研究（重粒子線がん治療研究、高度画像診断研究）	
<ul style="list-style-type: none"> ・重粒子線がん治療の定着 ・難治性がん患者の放射線治療による生存率向上 ・高感度、高解像度な診断装置開発による極めて初期のがん（3mm程度）の発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・重粒子線治療の着実な推進と高度先進医療への承認申請 ・5mm程度のがんが発見可能な診断装置のプロトタイプ開発
放射線感受性遺伝子研究	
<p>〔5年間の時限付きプロジェクトであるが、得られた研究成果は放射線先進医療研究等へ反映させていく。〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の多型と放射線感受性との相関関係の解明 ・放射線感受性の簡便な診断技術開発
放射線人体影響研究（低線量放射線生体影響研究、宇宙放射線医学研究）	
<ul style="list-style-type: none"> ・未だ人体影響が明らかでない中性子線の被ばくリスクを明らかにする。 ・拡大する人類の活動の場に応じた被ばくリスクの総合的な解明を行う。 ・研究データの提供による国際的放射線防護基準の確立への寄与 ・放射線リスク等に対する情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・白血病に関する中性子線の影響を明らかにする。 ・航空機搭乗員、宇宙飛行士の健康管理基準策定のためのデータを提供する。 ・宇宙放射線計測に関する実用的な線量計を開発する。
放射線障害研究（緊急医療対策研究）	
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急被ばく医療体制の中核機関としての体制整備 ・高線量被ばくに対する障害発生メカニズムの解明 ・臓器障害の治療法や2次発がんを抑制する防護剤の開発への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・被ばく医療のための効果的なネットワークの構築 ・障害発生メカニズムの検証を通じた実験レベルでの障害治療法の確立 ・放射線障害低減化剤の開発の基礎となる物質の同定

以上の重点研究領域を進めるに当たり、プロジェクト的に目標達成をねらう研究体制を構築するほか、当該領域の専門的能力を高め、プロジェクトに対し基盤的技術を提供するための研究及び創造的・萌芽的な研究を推進する。

研究所の活動を活性化させるための目標

成果の普及と活用促進

- 研究所の積極的な公開、広報誌等を通じた成果の紹介等を通じ、研究所の活動に対する理解増進に取り組む。
- 論文発表数、学会発表数、特許出願数を増加させ、研究活動を活性化させる。
- 企業との共同研究、技術移転を積極的に進める。

施設・設備の共用

- 研究資源の有効活用とともに、外部研究者のニーズに応え、施設の共用を促進する。

研究者・技術者の養成

- ポスドク、大学院生、外国人研究者の積極的な受け入れ
- 医学物理士等、ニーズの大きい人材の効果的な育成
- アジア地域を中心とした被ばく医療協力の主体的な実施

研究所の運営を効率的に進めるための目標

業務運営の効率化

- 行政コストの効率化を踏まえた業務の効率化
- 組織の肥大化や硬直化を抑制し、柔軟に再編が可能な組織の整備
- 企画機能の充実
- 評価結果の資源配分への反映と外部資金獲得の個人業績への反映

財務内容の改善

- 自己収入の増加
- 固定的経費の節減